

CD-ROMで  
今すぐ体験

ネットワークが  
音楽流通を変える

# 「Sound Jam」 実証実験に参加しよう



CD-ROM収録のSound Jam  
で聴けるクリスマスソング

## 本家オリジナルクリスマスソング

ホワット・ア・ワンダフル・ワールド / ルイ・アームストロング  
ハブ・ユアセルフ・ア・メリー・リトル・クリスマス /  
グレン・ミラー・オーケストラ  
赤鼻のトナカイ / インターナショナル少女合唱団  
レット・イット・スノウ / ビング・クロスビー  
おもちゃの兵隊(くみ割り人形) / ベルリン交響管弦楽団  
クリスマスの12日間 / ジョン・デンバーとマベットたち  
ホリディ・メドレー / アンディ・ウイリアムズ  
ヘンデル歌劇「メサイア」より「ハレルヤ」 / NYオラトリオ協会  
きよこの夜 / マリア・ジャクソン  
ああベツレヘムよ / モルモン・タバナル・コーラス  
CHORSUS NATUS EST NOBIS / カベラ・グレゴリアナ  
It Came Upon The Midnight Clear / ビアノ・ドリーム

## 90年代風クリスマスソング

One Horse Open Sled (シングル・ベル) /  
ROD SHAKKED  
おもちゃの兵隊のロック(くみ割り人形) /  
ROD SHAKKED  
The Funky Little Drummer Boy / ROD SHAKKED  
Latin Snow, Latin Snow, Let it Snow / ROD SHAKKED  
サンタが街にやってきた / ROD SHAKKED  
そりすべり / ROD SHAKKED  
グッド・レスト・イ・メリー・ジェントルメン / ROD SHAKKED  
イット・カム・アポン・ザ・ミッドナイト・クリア  
(The Surf Ride) / ROD SHAKKED  
フォレスティ・ザ・スノー・マン / ROD SHAKKED  
アイル・ビー・ホーム・フォー・クリスマス / ROD SHAKKED  
1曲50・200クレジット

CD-ROM収録先: [S]SJ  
動作環境: ウィンドウズ95



「レコードショップに行ってCDを買う」このごく当たり前の仕組みが変わろうとしている。インターネットの「オンラインショッピング」とも違う新しいシステム。それが「Sound Jam」だ。まだ実験段階だが、インターネットマガジンもこの試みに協力させていただくことになり、本誌CD-ROMにSound Jamがすぐに体験できるパッケージを収録した。多くの方にこの実験に参加していただき、実際に使ってみた感想、意見を409ページのメールアドレスまでお寄せいただきたい。

## Sound Jamプロジェクトが 動き始めた

Sound Jamは、新しい音楽流通システムを作るための実証実験を目的としたプロジェクトだ。全体のプロデュースとコーディネートは(株)平野デザイン設計が行う。また、コンテンツの提供およびプレイヤー部分の開発を日本コロムビア(株)およびユニバーサルビクター(株)が、BitCashカードの発行からビットキャッシュサーバーの運営管理までをビットキャッシュ(株)がそれぞれ担当する。さらに、(社)日本音楽著作権協会(JASRAC)での著作権処理も行っている。

実験期間は平成9年11月から平成10年1月までの3か月間。平成10年2月末には、報告書がIPA(情報処理振興事業協会)に提出されることになっている。

## パッケージ流通と ノンパッケージ流通の中間

新しい形の流通システム「Sound Jam」は、「パッケージ流通」と「ノンパッケージ流通」の中間に位置付けられる。

物品をとまなうパッケージ流通では、音楽の場合、レコード会社が楽曲を制作してこれをCDにプレスする。ジャケットやケースなどとともに卸業者のもとに送られ、小売店に届く。ユーザーはこれを購入する。

「CDNow」や「@TOWER.JP」などの「オンライン販売」は、購入のために店に行く必要はないが、送られてくるのは物である音楽CDだ。購入にネットワークを使っているだけで、実はパッケージ流通の1つである。

これに対して「ノンパッケージ流通」は、インターネットなどのネットワークを通じてコンテンツをダウンロードするといった、物品を伴わ

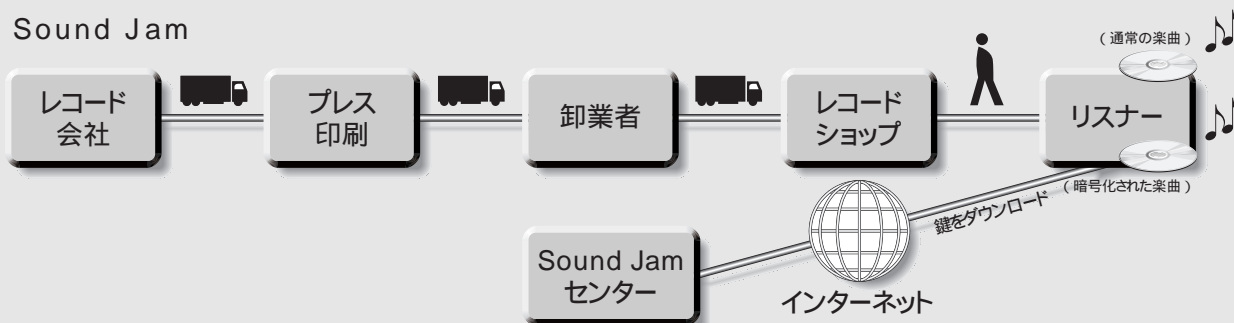
## パッケージ流通



## ノンパッケージ流通



## Sound Jam



ない流通を指す。会員制の音楽ダウンロードサービスを行う「music.co.jp」などがこれにあたる。

Sound Jamは、CDに暗号化した楽曲を収録して販売する。それぞれの楽曲を聴くには、BitCashカードを使って、暗号を解くための「鍵」をネットワークから購入（ダウンロード）すればいい。つまり、CDという「物品」と鍵という「デジタルデータ」を組み合わせた形の流通、「パッケージ流通」と「ノンパッケージ流通」の中間に当たるのがSound Jamなのだ。

### 古き良き時代の 名作がよみがえる

過去数十年にわたってさまざまな音楽を提供してきた各レコード会社には、膨大な量のコンテンツが蓄積されている。しかし、現在の流通システムでは、実際に発売されるのはヒット曲を中心とした「新譜」に限られ、「旧譜」の復刻版といった企画が非常に難しくなっている。

原因は流通システムにある。レコード会社側は数の見込めないICDに制作費をかけることが難しい。販売店側も、限られたスペースに売れないICDを置くわけにはいかない。

リスナーの趣向が多様化する現在、「Aという

アーティストが10年前に出したあの曲が聴きたい」というユーザーのニーズに応えられないのは残念だ。さらに、この結果、レコード会社では膨大な量の蓄積された音楽がまったく利益を生まないという悪循環も生まれている。

それでは、すべて「ノンパッケージ」にすれば解決するかというと、それほど単純ではない。パッケージ流通ではプレス・印刷業者、梱包業者、卸業者、運送業者、そして小売店などが広く利益を上げられる仕組みになっている。現時点では、これらの利益を消失させるノンパッケージへの移行は、とても現実的とは言えないのだ。

そこで、Sound Jamの新流通システムが考案された。ニーズの多い新譜の余白部分に旧譜の複製版データを暗号化して収録する。このCDをパッケージ流通を通してリスナーに届ける。購入したリスナーは新譜の通常部分をCDプレイヤーで聴く。もし、暗号化された旧譜を聴きたければ、1曲ごとにオンラインで「鍵」を購入してコンピュータで再生する。このシステムなら、旧譜部分は実質的にノンパッケージ流通で販売されるため、採算を考える必要がほとんどなくなる。Sound Jamは、古き良き時代の名作をよみがえらせる可能性も秘めているのだ。

### もう1つの問題 「著作権」

著作物をデジタル化する際に必ず話題になるのが「著作権」の問題だ。つまり、リスナーが購入した楽曲を公正にカウントして、権利者に正当な使用料が支払われるような仕組みができるかどうか重要になる。

Sound Jamでも、この点をかなり考慮したシステムを取り入れている。

CDに収録された楽曲を聴くためには、ネットワークから鍵を購入する必要がある。この鍵はコンピュータの所定の場所に保管され、リスナーが楽曲を再生するたびにCD内のデータに作用するようになっている。つまり、鍵が保存されているコンピュータでCDから再生した場合のみ楽曲が聴けるということになる。これによってデータの再配布は難しくなる。

また、Sound Jamでは、楽曲の管理に音楽録音物の世界統一付番規準である「ISRC」（国際標準レコーディングコード）を使用している。これによって、どの曲がどれだけ購入されたかを正確に把握できるため、購入曲ごとの著作権使用料を権利者に公正に支払えるようになっている。

## おもなBitCashカード販売店

紀伊國屋書店  
三省堂書店  
芳林堂書店  
ジュンク堂書店  
新鮮組(コンビニエンスストア)

支店によっては販売していないこともある。以下のURLに全国の販売店を掲載。

URL <http://www.bitcash.co.jp/shops.html>

ホームページでの通販

URL <http://www.bitcash.co.jp/cardshop/>

## これが

## Sound Jamのしくみだ

それでは、Sound Jamで楽曲を購入して実際に聴けるようになるまでの流れを見てみよう。

今回の実験は、有償と無償の2種類のCDによって行われる。有償配布はシングルCDとしてレコード店などで販売される。この中には、CDプレイヤーで再生できる通常の楽曲と、パソコンのみで再生できる暗号化された楽曲が収録される。無償配布は暗号化された楽曲のみを収録して雑誌などに添付される。今回、本誌CD-ROMに収録されているのもこの無償配布のものだ。

暗号化された楽曲はそれぞれ約10秒間の試聴ができる。試聴してみて気に入った楽曲があれば、インターネットに接続して「Sound Jamセンター」から鍵を入手する。この際に一般の「BitCashカード」または、今回の実験のために発売される「Sound Jamカード」が必要になる。前者は書店やコンビニエンスストアなど

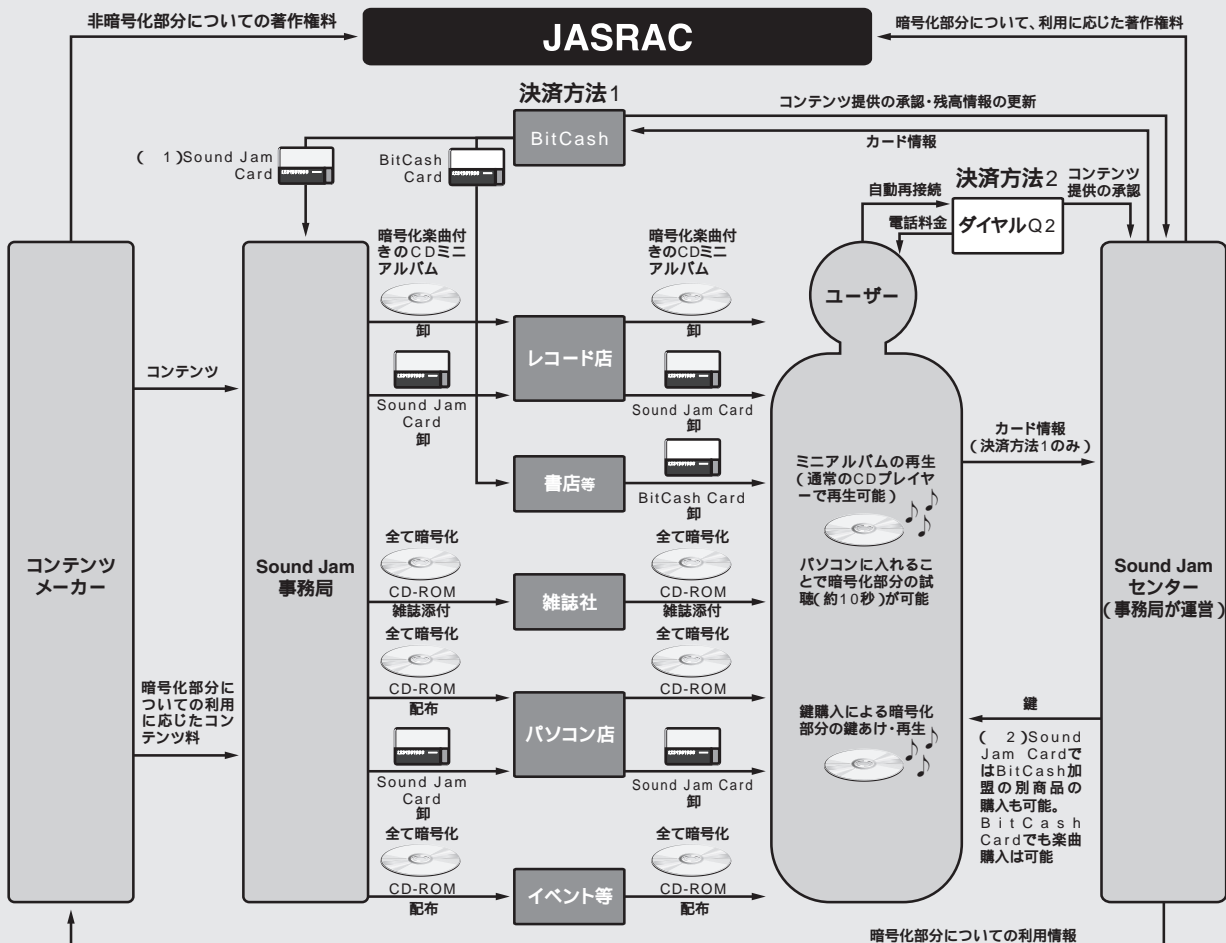
で、後者はレコード店、パソコン店でそれぞれ販売されている。なお、今回は本誌特別付録として、1曲から2曲分の鍵を購入できるSound Jamカードを用意した(200クレジット分)。なんと、これらのカードを購入しなくてもこの実験を体験できるのだ。

Sound Jamプレイヤーを起動して購入したい曲を選ぶと、インターネットに接続。Sound Jamセンターに自動的にアクセスする。ここでBitCashカードのカード情報を入力すると、鍵が自分のコンピュータにダウンロードされ、購入した楽曲が聴けるようになる。

使用料の流れを見てみよう。コンテンツメーカーは暗号化されていない通常の楽曲についての著作権料をJASRACに支払う。Sound Jam事務局は暗号化された部分の使用状況を把握し、利用に応じたコンテンツ料をコンテンツメーカーに、同じく、利用に応じた著作権料をJASRACにそれぞれ支払う。

なお、将来的にはBitCashカードによる決済方法のほかに、ダイヤルQ2による決済も予定している。

## Sound Jamシステム概念図



\* 1 Sound Jam CardはサウンドジャムのロゴをデザインしたBitCashカード  
\* 2今回付録として収録したSound Jamカードはこの実験にしか使用できない

## Sound Jamを 体験しよう

それでは、さっそく本誌CD-ROMと特別付録Sound Jamカードを使って新しい音楽流通システムを体験してみよう。

Sound Jam プレイヤーは実験用ソフトのため、いくつかの不具合が確認されています。うまくいかない方は、以下のURLから最新バージョンを入手してください。なお、Sound Jamに関するお問い合わせは以下の電話番号等で受け付けています。

URL <http://www.soundjam.co.jp/>

support@ soundjam.co.jp

FAX : 03-3705-7575  
(Sound Jam事務局)

電話 : 03-3584-8263  
(技術問い合わせ)

## プレイヤーの セットアップ



1

ナビゲーターCD-ROMから「SJ」フォルダーを開く。この中の「Player」フォルダーを開く。上図の丸で囲んだ「Setup」をダブルクリックする。



2

セットアップ画面が表示されたら、上図のウィンドウが表示されるまで「次へ」を押す。上図のウィンドウで通常使っているWWWブラウザを選び、「次へ」を押す。ファイルのコピーが終わればセットアップは完了。「再起動が必要」のメッセージが出たらコンピュータを再起動する。

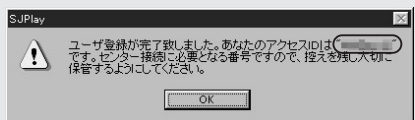
## 鍵をダウン ロードしよう



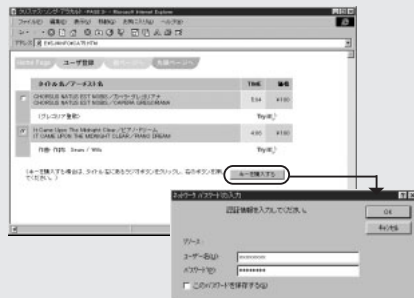
1 セットアップが終わったらプレイヤーは必ず終了させる。インターネットに接続してCD-ROMの「SJ」フォルダーの中の「Index.htm」をダブルクリックする。



2 WWWブラウザが起動して最初のページが表示されたら「ユーザー登録」をクリックする。上図のページに行くので、必要事項を記入して「送信」ボタンを押す。



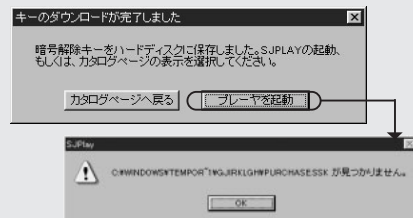
3 8桁のアクセスIDが発行されるので、これを必ず書き留めて「OK」を押す。WWWブラウザの「戻る」ボタンを押しての画面に戻る。「タイトル一覧ページへ」をクリックする。



4 「次ページへ」や「前ページへ」をクリックして購入する曲を選ぶ。「Try it」をクリックすると約10秒間の試聴ができる。購入する曲が決まったら左の丸にチェックを付けて「キーを購入する」を押す。次のウィンドウで「ユーザー名」に発行されたアクセスIDを、パスワードに「soundjam」をそれぞれ入力して「OK」を押す。



5 プロキシ経由でインターネットに接続している場合は「SSLが利用できない」を押して次のページで、それ以外の方はこのページで、付録のSound Jamカードの銀色部分をはがして上図のページに4行のひらがなを1行ずつ入力して「送信」を押す。次のページで「購入」を押すと「鍵」がダウンロードされる。



6 次の画面で「プレイヤーを起動」を押す。エラーメッセージが出るが、問題はないので「OK」を押す。



7 インターネットから切断して、「スタート」メニュー「プログラム」「Sound Jam」にある「Sound Jam」をクリックする。プレイヤーが起動したら④のボタンを押す。購入した曲の左に緑色のマークが付く。これを選んで「楽曲をロード」を押す。プレイヤーに戻るので、④のプレイボタンを押す。これで楽曲が聴ける。2度目からの購入はの画面から行う（ユーザー登録はないこと）

\* の画面で楽曲の価格が「¥100」となっていますが、これは誤りです。正しくは「100クレジット」です





## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)